

国際居住年記念事業 令和2年度「国際居住年記念賞」の受賞者について

国際居住年記念賞は、主として開発途上国等における居住環境問題の改善に貢献された団体に対し、1988年の第一回授賞以来、主として海外の団体を中心として授賞してまいりましたが、平成24年度からは国内のNGO等団体へ授賞することといたしました。

居住環境の更なる向上と草の根的国際協力活動の推進と発展に資するため、令和2年度「国際居住年記念賞」は国際居住年記念事業運営委員会（委員長：岡部明子氏東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）において、以下の団体が選考され、授与することが決定いたしました。なお、授与式は当協会第73回通常総会(令和3年6月14日)の開催に先立って行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、誠に残念ですが、やむなく中止することとなりました。

◎国際居住年記念賞受賞者

ハイチの会

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

当団体は1986（S61）年に設立され、NGOとしてハイチ共和国の貧しい子どもたちへの識字教育、生活指導、地域の人々の生活向上を目的として、農業支援、農園建設の活動を行っています。

ハイチ共和国エンシュ市ボナビ村において、居住環境の改善に関する活動として学校給食支援、地域住民の生活自立支援に関する活動として畜産育成農業指導、小規模融資制度を住民の希望により実施しています。

「農業で今日の命を守り、教育で明日のハイチを育てる」活動を約40年に亘り続けてきた今、地域住民が自立して考え行動することを主題としています。十分な食糧を確保できているとは言えないものの循環型農業により年々家畜が増え、土が豊かになり、食料の生産性が向上し、農場経営が黒字になり、小規模融資を行えるようになっていきます。

また農場の作物や利益の一部を学校の給食や運営に使えるようになり、自立に繋がっています。干ばつやハリケーンなどの自然災害で収穫に恵まれないことや家畜が増えることで餌や水の確保が難しくなる等常に課題はありますが、流れを止めることなく今後も地域住民の自立を促す活動を加速させていきたいと願っています。